

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座 season4

感染症の行動経済学

大竹 文雄 氏 大阪大学感染症総合教育研究拠点・特任教授

2026年7月31日(金) 19:30～20:30

YouTube Live無料配信

シリーズ概要

本シリーズは2021年度～2022年度の2年間、私たち大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）は、『感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座』を通じて、パンデミックという緊急事態に対応する方法をお届けすることからスタートしました。その後、パンデミック後の社会や将来のパンデミックをみすえて講座をリニューアルし、科学的根拠（エビデンス）と上手に付き合いながら、私たちの「いのち」と「暮らし」を豊かにする術（すべ）を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象に、わかりやすく解説する全6回のプログラムです。

講座概要

感染症対策と経済学は一見無関係に思えるが、ワクチン接種には『正の外部性』があり、個人の判断に任せると接種率が過小になりやすいと言われています。本講座では行動経済学の視点から感染症対策を読み解きます。幕末の大坂で牛痘種痘の普及に苦労した緒方洪庵が、金銭的インセンティブや啓発チラシ（引札）を用いて人々の接種意向を高めた工夫を紹介し、新型コロナワクチンや風しん抗体検査をめぐる最新のナッジ研究へとつながります。利他的メッセージの効果や、対象者本人ではなく配偶者に情報を届ける鉄道広告の効果検証など、人々の行動変容を促す仕掛けを、エビデンスとともに考えていきます。

講 師



大竹 文雄

大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）・特任教授

専門は行動経済学。大阪大学社会経済研究所教授、経済学研究科教授等を経て2021年から現職。大阪大学理事・副学長、行動経済学会会長、日本経済学会会長を歴任。新型コロナウイルス感染症対策分科会委員（2020～2023年）を務めた。行動経済学の観点から感染症対策やワクチン接種行動を研究し、近著に佐々木周作・齋藤智也との共著『未知のワクチンに向き合う』（日本評論社）などがある。

7月31日開催講座の詳細はこちら ▶
<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2026/detail20260731.php>



主 催 大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）、一般社団法人ナレッジキャピタル

問い合わせ 大阪大学感染症総合教育研究拠点

☎ 06-6105-5827 ✉ pub.relations@cider.osaka-u.ac.jp 💻 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/>

CiDER

